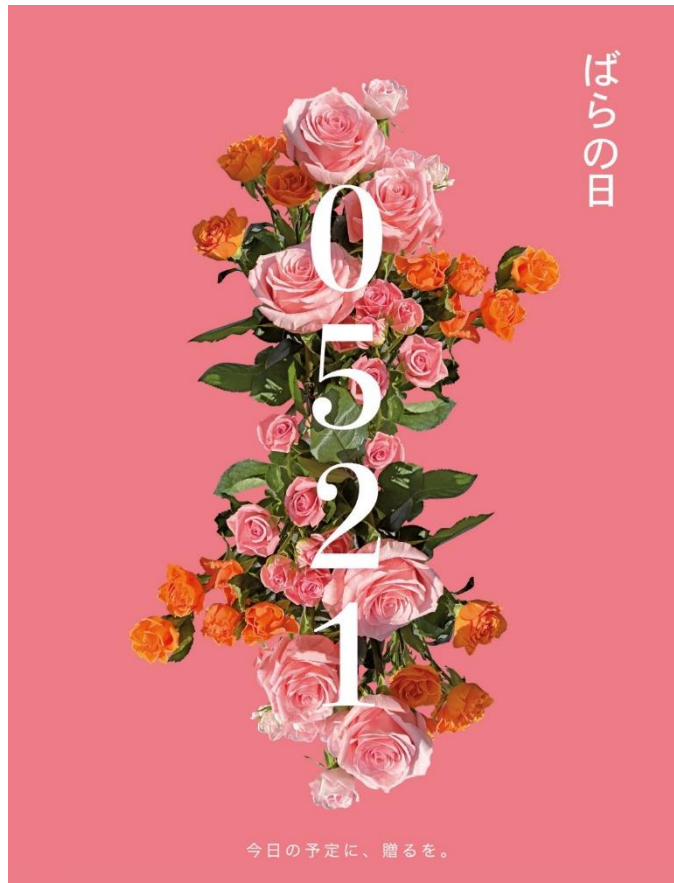


# デザイン①

## 「0521 | 想いを贈る日」



バラ本来の美しさや色の奥行き、そして生命感をありのままに伝えるため、実際に撮影したバラの写真を使用しました。演出に頼らず、花そのものが持つ魅力を大切に表現し、ポスターを目にした人が「バラを誰かに贈りたい」と自然に感じてもらえるようなデザインを心掛けました。

また起用したのは、淡いピンクとオレンジのバラ。色彩の美しさだけでなく、それぞれの花言葉に込められた想いを大切にしました。淡いピンクのバラは「優しい愛」「感謝」「あなたに出会えて幸せ」「誇り」を意味し、日常の中で照れくさくて伝えられない気持ちや、静かに寄り添うような愛情を表しています。オレンジのバラは「絆」「信頼」「無邪気」「幸多かれ」といった意味を持ち、家族や友人、恋人など、関係性を超えて人と人をつなぐ、温かく前向きな想いを象徴しています。この2色のバラは、贈る相手や関係性を限定しない組み合わせとして選びました。そこには、思いやりや優しさが自然に行き交い、互いを気遣い支え合う「ローズマインド」の精神を、花を通して伝えたいという想いを込めています。

ポスター中央に大きく配置した「0521」は、視覚的なインパクトによってバラの日の日付を印象づけるためです。言葉よりも先に数字で心に残し、ふとした瞬間に5月21日は「はらの日」だと、思い出してもらえることを目指しました。

「今日の予定に、贈るを。」という言葉には、特別な日でなくても“贈る”という行為を日常に取り入れることで、思いやりや優しさが人から人へと巡り、幸せが循環していくきっかけを、はらの日を通して届けたいという想いを込めています。



# デザイン②

## 「思いやり、満開。」



この作品はローズマインドの「思いやり」をばらに例えました。

両手いっぱいのばらは人の思いやりが溢れている状態を表しています。赤、ピンク、オレンジの意味は全て思いやり、あたたかさを意味しており、思いやりはばらのように自然に咲き、満ち溢れていくものだと考えました。

このポスターを通じて人と人との間が思いやりで溢れていてほしいです。

# デザイン③

## 「思いやり」



ばらを贈るということで、私は、贈る＝プレゼントボックスだと考えました。プレゼントボックスの中には、たくさんのばらへの思いがたくさん詰まっています。その思いが詰まったプレゼントを「伝えたい」「届けたい」「贈りたい」そう思えたらという思いで制作しました。



# デザイン④

## 「贈る」



背景にあるたくさんの花びらを、相手へ贈る1つ1つの思いやりに例えて、相手に届いているイメージを表現しました。特別なイベントにだけバラを贈るのではなく、日頃からバラを贈ることを習慣化させたいという思いと、高価な花束より、心のこもった一本のバラを大切な人に贈ろう。その一本が思いをつなぎ、人から人へと広がっていくという想いをコンセプトにして制作しました。



# デザイン⑤

## 「ばらでつながる想いがある」



「ばらの日」。

この日は、ばらを贈ることが日頃の感謝などの想いを伝えるための手段になってほしいという想いがあります。

このポスターでは、複数のばらが花びら同士で繋がっています。それは、贈る人と受け取る人のその間に生まれる想いが、ばらを通して繋がっていく様子を表現しています。

また、ばらの花びら1枚1枚絵の具で塗り重ねたようなアナログな表現で描きました。その質感には、時間や手間をかけて想いを込める「贈る」という行為の温度を重ねています。

グラフィカルで鮮やかな色彩にすることで、若い世代の目にも留まりやすくし、「ばらの日＝ばらを贈る日」という文化を自然に知ってもらうことを目的としています。